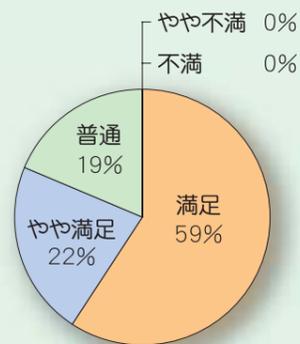


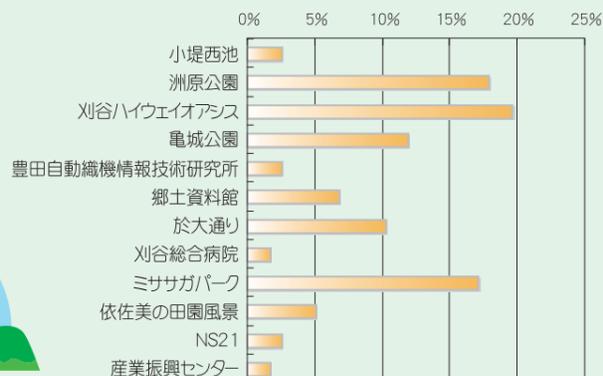
アンケート結果より●●●

講座終了後、参加者の方にアンケートへご協力いただきました。ここでその結果の一部をご紹介します。

講座の感想



見てまわった所で良かった場所



講演の感想

- 名所図会は、美術品としてしか見たことがなかったので、3つの要素という観点で見ることが新鮮であった。
- 子どもの頃、スライドのような絵をよく見た気がした。なつかしさを思い起こしました。そのまちの人たちがどうしたいのかや、夜のにぎやかさのあることが、まちの景観として大事ということに納得。子どもには少しピンとこなかった。
- 昔も今も人が集まる場所は名所だ。
- 「名所図会で読み解く」という発想は、今まで考えたことがなかったので、先生のお話がとても楽しく、興味深く、このような本をじっくり読みたいと思いました。良いきっかけになりました。
- 文化都市というのは、景観がとても大切なのだと思いました。

刈谷市内でオススメの景観スポット

総合運動公園とその近くの河川敷

- 広々としているし、春には桜、川には野鳥の姿が多く見られる。
- 広々として緑も美しく、サッカー場もあり、イベントもできて、多方面に活躍できる公園。

ミササガパーク

- 四季により変化がみられる。
- とても美しいバラ園と自然が景観にとけこんでいいと思いました。

その他、挙げられた景観スポット

- ダイコン畑
- 市原神社
- 旧依佐美送信所の建物とその敷地
- 中央図書館
- 城町図書館近くの昔の呉服店やその周辺の古い町並み
- 織機関係の施設の外構

刈谷市内で嫌いな景観スポット

刈谷駅周辺

- 刈谷の玄関らしくならないものかなあ。
- 刈谷のシンボルとなるものがない。
- 水商売の店などが多すぎて、風紀上悪く、子供達が危ない。
- 道路にいつも車が止まっているので、踏み切り前がとても混む。

その他、挙げられた景観スポット

- 工事が途中で止まっている現場
- 日高公園
- 花見時の亀城公園
- 刈谷市の中心街

景観を考える上で重要なのは、「地域の人が自分達の景観の方向性を決めていく」ことです。私のような外部の人間や行政担当者が「こうしろ」といって決めるものではありません。学識者や行政ができるのは、「こういうやり方もあるよ」とか「こんな視点で見てみたら？」という、ヒントを示すことだけで、その中から何を選択するかを決めるのは住民の方々自身なのです。

今回、講座に参加して、参加者の方々の意識が高いことに驚き、素晴らしいと感じました。こういう方々が増えると、刈谷の景観もぐっと良くなっていくのではないかと思います。景観に必要なのは、センスも勿論ですが、周りの小さなこと、例えば「この通りの家は皆庭が綺麗だな」とか「あそこの木は古くからある大切なものだね」ということに気づくことです。それが刈谷らしい、住民にとって「幸せな」景観をつくっていくきっかけになると思います。どうぞ日頃から「よいとこ探し」をしてみてくださいね。

刈谷の幸せな景観を作っていくために

岡本真理子先生の一言



ひかり結ぶまち

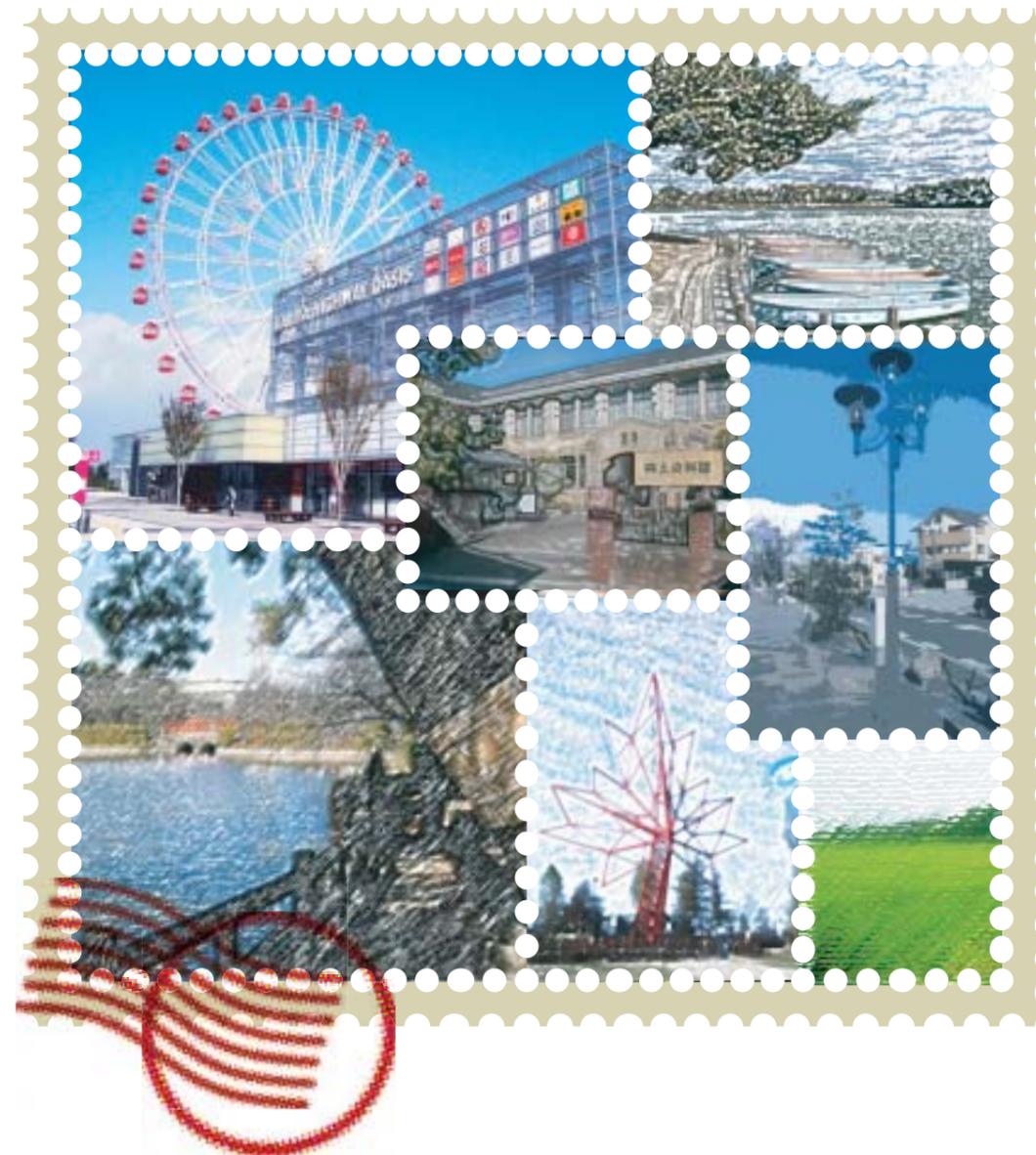
テーマ
かりや景観づくり講座

かりや 景観れぽーと

VOL.14

発行日:平成18年3月15日
発行:刈谷市都市計画課
TEL:(0566)62-1022

刈谷の「よいとこ」みつけましょ。



絵や写真で自慢したい、

今回のかりや景観れぽーとでは、平成17年11月に開催した「かりや景観づくり講座」について、ご紹介いたします。

「かりや景観づくり講座」では、平成15年度から景観に関する様々な取り組みを行っています。一昨年度はガーデニング講座、昨年度は親子での景観マップづくりを行いました。

そして今年は「さあ、でかけよう！刈谷よいとこ巡り」と題し、前半は東海女子大学教授の岡本真理子先生を講師に迎え、「名所図会」に見る「景観」のとらえ方についてお話をいただきました。

また、後半は刈谷市内を北から南へ縦断し、一日かけて12の景観スポットを巡りました。住み慣れたまちでも、バスに乗って見てまわると、景色がまた違って見えてきます。南北に長い刈谷市、場所によって、季節によって、また時間によっても、色々な表情を見せてくれます。

皆さんも、ちょっと視点を変えて、住み慣れたまちで「よいとこ探し」をしてみませんか？

さあ、でかけよう! 刈谷よいとこ巡り

開催:2005年11月20日(日)

ミニ講演「名所図会で読み解くまちなみの景観」

東海女子大学教授の岡本真理子先生を迎え、名所図会と景観との関連について、スライドを使いながら、講演していただきました。

名所図会は3つの要素で構成される

名所図会は3つの要素で構成されています。1つは「形態要素」で、建物や橋、自然のように、目で見えるものです。次が「意味要素」で、お祭りや産業、故事など、形として存在しないものを指します。

それから、最後の「風土要素」は、前の2つと異質ですが、時間や季節を限定して描いたものを指します。つまり、「朝のこの風景がいい」「夜のこの場所がいい」「紅葉の季節のここがいい」「桜の季節のここがいい」ということが風土要素といえます。



講演会の様子。子どもさんも興味津々!

湯島天神の名所図会を見ても、最初は宗教の場として、天神様を参拝しているものが多く見られます。つまり、建物としての「形」が描かれているわけです。

時代を経て、江戸後期に描かれた湯島天神の図会を見ると、雪の日の坂の上の眺望が描かれています。先ほどの話でいえば、「形態要素」から「風土要素」

へと変化しているわけです。また、江戸の駿河町の三井呉服店の図会を見てみましょう。最初のうちは宗教施設などの公的なものが多く見られますが、しだいに町屋のような、私達に身近なものも描かれ、景観として扱われるようになっていきます。「こんなに私達のまちは賑わっているのよ」ということを見せるわけです。



大人の方も初めて見る図会・風景に心ひかれています!

「形のあるもの」から「形のないもの」へ

イギリスの造園家であるフォーチュンが、「幕末日本滞在記」という本を出しています。その中で当時の江戸について、「樹木で縁取られた静かな道や常緑樹の生け垣などの美しさは、世界のどの都市も及ばないだろう」と言っているんですね。

日本人は、景観というと、ヨーロッパが良いという人が多いですが、私達は昔から景観を意識する豊かな感性を持っているんですね。それは今ご紹介した名所図会からも分かることだと思います。

美しいものだけが良い景観ではない

私はいつも「景観は美しいだけが景観のいいところじゃない」と思っています。例えば、香港は、ネオンサインが沢山あって、ヨーロッパ的な美しさはないですね。でもあの猥雑な、迷路のような感じにワクワクさせられるようなことってありませんか?今、日本で昔の横丁などを再現した場所が流行ってるのはそういうことだと思います。人間というのは美しいだけでは生きていけないんですね。

ですから、自分のまちを「美しい景観にする」というのは、実は「幸せな景観を作る」とことだと思います。

これから刈谷市内を回りますが、その際には、絵に描いたようなきれいさだけではなく、自分の心をワクワクさせてくれたり、元気にさせてくれる景観もプラスアルファとして見て頂きたいと思います。



いろんな図会・写真をスライドで見せていただきました。いい景観はやっぱりいい!

めいしよずえ 名所図会とは

名勝、風俗、名産、神社仏閣など名のある場所を絵と平易な文章で説明した地誌です。江戸時代に、各種のものが作成されました。「名所」とは歌に詠まれるほど有名な場所のことで、「図会」とは図や絵を集めたものという意味です。いわば、江戸時代の観光案内書といえるでしょう。

まちなみ観光—刈谷よいとこ探し—

講演後、バスに乗り込み、岡本真理子先生と一緒に刈谷市内の「よいとこ探し」をしました。刈谷にはどんないいところがあるのでしょうか?

刈谷市北部

ROUTE: 市役所～洲原公園～小堤西池～刈谷ハイウェイオアシス

刈谷市北部は自然が多く、木々が茂る豊かな自然景観を楽しむことができました。今回は季節がはずれていましたが、洲原公園や小堤西池のように、サクラやカキツバタなどを、季節ごとに様々な表情で人々を楽しませてくれる地域です。初めて訪れたという人もおり、その自然の豊かさに感動されていました。

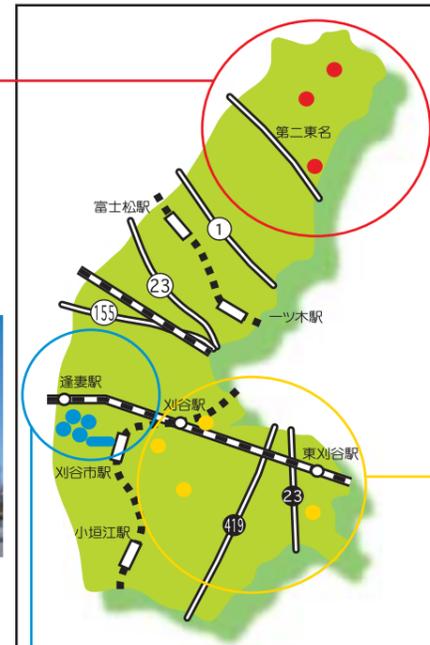
刈谷ハイウェイオアシスは、遠くから一望できる刈谷の新たなランドマークとなっており、特に刈谷名産・スイカをイメージした観覧車が遠くからよく見えます。また、サイン(標識)や施設は、色や形が統一され、施設や歩道などが一体となった景観を見ることが出来ます。



自然にあふれた洲原公園。洲原池が美しい景観を作り出しています。



刈谷の新たなランドマーク、刈谷ハイウェイオアシス。



刈谷市中部

ROUTE: 亀城公園～豊田自動織機情報技術研究所～郷土資料館～於大通り～刈谷市駅

刈谷市中部は、歴史的な景観と近代的な景観をあわせもつ地域です。亀城公園や郷土資料館は刈谷市の長い歴史を感じさせてくれ、歩調も思わずゆっくりになりました。

一方で、ガラス張りの豊田自動織機情報技術研究所は、周囲の歴史的な景観を壊さないよう、緑化に気を使っており、企業の高い意識を感じることができました。

於大通りは電線が地中に埋め込まれた(電線地中化)通りで、周囲の地中化されていない通りと比べると、空や建物が明るく、開放的にみえました。



歩いていて心地のよい秋晴れの亀城公園。



郷土資料館前。歴史的な空間に目を奪われます。



電線がなく、開放的で眺めのよい於大通り。

刈谷市中部・南部

ROUTE: 刈谷総合病院～ミササガパーク～依佐美の田園風景～NS21～産業振興センター



ミササガ公園。万博カナダ館のメープルリーフがありました!



バスからの眺めは一味違う!

刈谷市南部は、広大な田園風景やミササガパークのような、人が定期的に手入れをすることで生まれる美しい風景が特徴的でした。また、刈谷総合病院やNS21のような近代的な施設や、個人住宅、マンションなどが、積極的に緑化されていることで、周囲の風景に違和感なく溶け込んでいたのが印象的でした。

その後は、南部から一路、皆さんおなじみの産業振興センターへ。特徴的な曲線は「繭」をイメージしたものと聞いて納得。



岡本 真理子 氏
(東海女子大学人間関係学部人間関係学科教授)

山口県生まれ。東海女子大学人間関係学部人間関係学科 教授、文化環境計画研究所 取締役。愛知県環境影響評価審査委員会委員や名古屋市広告・景観審議会委員等を務める一方で、名古屋市鶴舞公園奏楽堂、西尾城等を手がけている。著書に『近世建築書—座敷雛型』、『名古屋城』、『公共空間のデザイン』等多数。